

「韓国語」と「朝鮮語」の区別について⁽¹⁾

宋 実 成

1. 序 論
2. 「韓国語」と「朝鮮語」の区別の妥当性についての検証
3. 結 び
4. 参考文献ならびに引用資料類

キーワード: 「韓国語」、「朝鮮語」、「言語差」、
方言・変種、区別の妥当性

1. 序 論

1.1 はじめに

Korea⁽²⁾が日本帝国の植民地支配から解放されて62年、38度線で区切られた Korea の南半分に大韓民国 (以下 韓国) が、Korea の北

半分に朝鮮民主主義人民共和国 (以下 朝鮮) が建国⁽³⁾して59年、そして、朝鮮戦争の休戦によって、軍事境界線で南北が分断されて54年という月日が経った。

2000年と2007年の二度にわたる南北首脳会談に象徴されるように、昨今、南北 Korea 間での政治・軍事的緊張が徐々に緩和されてきたことによって、南北間での多方面に渡る交流が活発化し、今や南北 Korea がきわめてゆっくりとした速度ながら「一体化」していている感すらある。しかしそれ以前、南北 Korea の両政府は、一時的に認められたもの以外の一切の南北間交流を禁じ、遮断⁽⁴⁾したのみならず、自らの体制の優越と正統性を主張し、相手の体制

(1)本考は、多言語化現象研究会第31回研究会 (2007年5月12日、於 国立民族学博物館)での口頭発表に加筆修正を施したものである。

(2)本考では、朝鮮半島ならびに済州島などの島嶼部を含む地名に「Korea」を、「朝鮮人」あるいは「韓国人」と呼ばれる民族に「Korean People」を、大韓民国の実効支配地域に「South Korea」、朝鮮民主主義人民共和国の実効支配地域には「North Korea」を、そして、「朝鮮語」あるいは「韓国語」と呼ばれる言語に「Korean Language」あるいは「Korean」の名称を使って議論を進める。

(3)韓国、朝鮮両政府ともに、自らが Korea を代表する唯一の政府であるとしている。大韓民国憲法第1章第3条には「大韓民国の領土は韓半島とその付属島嶼とする」(筆者訳)とある。編輯部(1997)2頁参照。

(4)東西分断時代のドイツは、Korea とは違って、東西ドイツ間の戦争がなかったなどの事情もあってか、南北 Korea に比べてはるかに交流が日常的、かつ、頻繁だったようである。

橋本郁雄(1989)によれば、グリム兄弟の「ドイツ語

辞典 (Deutsches Wörterbuch 略称 DWB)」の新訂版である「ヤーコプ・グリムとヴィルヘルム・グリムのドイツ語辞典 改訂版 (Deutsches Wörterbuch von Jacob Grimm und Wilhelm Grimm. Neubearbeitung)」は、1965年以来、東西ドイツの協力のもと、A-Cまでを東ドイツ側が、D-Fまでを西ドイツ側が編纂したという。また、東西分断もない1951年から西ドイツのゲッティンゲン・バッハ研究所と東ドイツのライプツィヒ・バッハ・アルヒーフは共同で、17~18世紀の音楽家である J.S バッハの作品全集である「新バッハ全集」編纂を始めた。東西分断時代、同全集の編纂会議は3ヶ月に1度、東西が持ち回りで開催した。また、19世紀以来のドイツの光学機器メーカーで、東西分断によって会社が分断されたカール・ツァイス (Carl Zeiss) 社は、1970年代、東西両社で協議の上、国際市場での商標の使用に関するルールを定めた。また、東西ドイツの境界線では、入域審査という形ではあったが、東西ドイツ人が接触する機会があった。

の脆弱さや不当性を訴え、時に軍事力を行使するという形で鋭く対立してきた。

このような対立は、Korea の政治・経済的側面のみならず、言語や文学、芸能をはじめとした文化的側面にも持ち込まれた。Korean People のなかには、自分が支持したり、帰属意識をもっている体制のものには親しみを感じるが、そうでないものに抵抗を感じたり、さらには、「敵対する勢力のもの」として積極的に排除しようとする傾向すら見られる。

Korean Language (以下 Korean) の名称である「한국어 [hangugo]」と「조선어 [čosŏnŏ]」、そして、これらの日本語での名称である「韓国語」と「朝鮮語」も上記のような文化的対立にさらされて、その名称の意味や用法が変質したり、それらの呼称の使用に社会的な制約が付きまとう文化的項目である。

最近、特に韓国や日本では、韓国政府が実効支配している地域で使用されている Korean の下位言語を「한국어 [hangugo]」あるいは、それを日本語に直訳した「韓国語」と呼び、朝鮮政府が実効支配している地域で使用されている Korean の下位言語を「조선어 [čosŏnŏ]」あるいは、それを日本語に直訳した「朝鮮語」に区別して呼ぶことが広く見られるようになった。本考ではこの問題について考えてみたい。

1.2 本考の目的

本考の目的は、韓国政府が実効支配している地域で使用されている Korean の下位言語を「한국어 [hangugo]・韓国語」と呼び、朝鮮政府が実効支配している地域で使用されている

Korean の下位言語を「조선어 [čosŏnŏ]・朝鮮語」に区別して呼ぶことの妥当性を検討することにある。

1.3 Korean の言語名称をめぐる対立の発端

Korean の言語名称をめぐる対立の起源は、1948年に、大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国が各々別々の名称で建国したことに求められる。仮にこのとき、「大韓民国」ではなく「朝鮮民国」であったり、「朝鮮民主主義人民共和国」ではなく「大韓民主主義人民共和国」であったなら、「韓国語」と「朝鮮語」の名称対立はなかったものと思われる。1950年1月16日に大韓民国国務院は告示第7号「国号および一部地方名と地図の色の使用に関する件」を発表し、「朝鮮」という名称を国名、地名として使用することを法的に規制した⁽⁵⁾。ちなみに、この告示との関係は定かではないが、同年1月初旬、駐日韓国代表部は連合国軍総司令部（略称 GHQ、以下同じ）に、すべての在日 Korean の外国人登録証にある「朝鮮」表記を「韓国」に改めるよう要請した。これを受けて GHQ は1月11日と2月20日、日本政府に「韓国」表記への変更を要請した。その結果、2月23日、日本政府は「法務総裁談話」と「民事局長通達554号『外国人登録事務取扱いに関する件』」を発し、「朝鮮」や「韓国」という表記の違いは「用語」の問題である、との見解を明らかにするとともに、外国人登録上の「朝鮮」表記から「韓国」表記への変更は認めるが、「朝鮮」表記から「朝鮮民主主義人民共和国」表記への変更は認めない、といった方針を打ち出すという一件が

(5)内山政春(2004)から、同告示の内山氏による日本語訳を引用しておく。

「1 わが国の正式国号は「大韓民国」であるが、使用の便宜上「大韓」または「韓国」という略称を用いることができるが、北朝鮮傀儡政権との確然とした区別をするために「朝鮮」は使用することができない。

2 「朝鮮」は地名としても使用することができず、

「朝鮮海峡」、「東朝鮮湾」、「西朝鮮湾」などはそれぞれ「大韓海峡」、「東韓湾」、「西韓湾」などと改めて呼ぶ。

3 政治区分地図にあってわが国の色は緑色とし、赤色は使用することができず、わが国の色を明確にあらわすために、隣の中国は黄色、日本は桃色、ソ連は紫色とする。」。

あった⁽⁶⁾。

South Korea では朝鮮戦争後の1950年代半ばには、「朝鮮語」という名称が言語学論文の中でも見られなくなったようである⁽⁷⁾。一方、North Korea で「韓国・韓」が使用されなくなった契機などについて定かではないが、現在使用されていないのは確かである⁽⁸⁾。従来、階級対立に基づくイデオロギーの色彩がなく、右から左に至るまで幅広く使われていた「朝鮮」と「韓」という名称は、南北 Korea の対立によって、共産主義と資本主義という色付けがなされた⁽⁹⁾。そして、人々は片方だけを使い、もう片方を使わないことで、国家に対する忠誠と身の証しとしてきた。一方で、南北 Korea の歴代政権やその出先機関として機能してきた在外 Korean 諸団体は、個人がどちらの名称を使用するのかを通してその人の思想を点検すると共に、その社会・団体内でのその個人の生存権をも支配してきた。

なお、この対立が日本人にも波及したために、日本人の中ですら「朝鮮」と「韓」の名称の片方だけを使い、もう片方を意識的に使うまいとする風潮が見られる⁽¹⁰⁾。また、最近日本では、本来 Korea の半島部分しか意味しない「朝鮮半島」が Korea の総称のように用いられているが⁽¹¹⁾、これは「朝鮮」だけでは使いづらい、あるいは、使いたくない、という意識が反映さ

れたものなのかも知れない。

1.4 Korean の名称をめぐる従来の議論

まずは、1.2 で述べたような意味で、「한국어 [hangugŏ]」あるいは「韓国語」と、「조선어 [tʃosŏnŏ]」あるいは「朝鮮語」と区別している事例を見てみよう。

金泰虎(キム・テホ、2006)は、南北各々で使用されている Korean を「韓国語」と「朝鮮語」に区別し、両者の言語規範や音韻・文法の構造と語彙、正書法などの違いに基づいて、「韓国語と朝鮮語の異質性の拡大が、外国語のように翻訳をしなければならないほど深刻」⁽¹²⁾であるとしている。その上で、大学生らに対するアンケート結果や昨今の「韓国語」名称使用の増加、さらには、日本では South Korea の標準語が教えられている点などに基づいて、両言語に対する「誤解」や言語呼称に関わる政治的対立を避けるため、Korean の総称を「韓国語」とすべきであるとしている。

鄭稀元(チョン・ヒウォン、2007)は、「便宜上大韓民国とその言語を韓国と韓国語とよび、朝鮮民主主義人民共和国とその言語を北朝鮮と朝鮮語とよぶことにする。言語学的に韓国語と朝鮮語は同じ言語である」⁽¹³⁾との前提の下、南北 Korea 各々の標準語規定の違いや規範言語における語彙の違い、字母の名称や配列順序の

(6) 在日朝鮮人の人権を守る会(1979) 263頁参照。

(7) 植民地時代からの言語学者で、南北分断後、South Korea に留まった李崇寧(이승녕)は、1954年発表の論文「唇音攷一특히 唇輕音 ‘ㄹ’을 중심으로 하여(唇音考 一特に唇輕音 ‘ㄹ’を中心として)」のなかで、「國語」と共に「朝鮮語」という呼称も用いている。それ以後の彼の論文では、先行研究のタイトルなどを除いて「朝鮮語」は見られなかった。

(8) 1992年出版の「조선말대사전(朝鮮語大辞典)」1・2では、「대한 [tefan] (大韓)、한 [han] (韓)、한국 [hanguk] (韓国)」という見出語はない。上掲書1 890-891頁、上掲書2 889-891頁参照。

(9) 和田春樹(1992)によれば、のちに朝鮮の首相、国家主席となった金日成(キム・イルソン)が深く関与し

ていた朝鮮独立運動組織の名称は「在滿韓人祖国光復会」であったし、1937年6月、金日成の指揮下、東北抗日聯軍が当時の朝満国境の朝鮮側の町、普天堡を襲撃した際、「韓人祖国光復会目前十大綱領」のビラを撒いたという。上掲書168、186頁参照。

(10) 大野(2002)は、South Korea が「韓」の名称を使い、North Korea が「朝鮮」の名称に「固執」する「原因」について「述べ」ている。上掲書72-110頁参照。

(11) 濟州島などの島嶼部をも含めて「朝鮮半島」や「朝鮮半島の歴史と文化」、「朝鮮半島出身者」と表現すること。

(12) 金泰虎(2006) 29頁参照。

(13) 鄭稀元(2007) 163頁参照。

違いについて論じたものである。語彙の形態と意味の異同、南北 Korea 双方の言語政策や社会体制の違いによる語彙の変化・発生といった語彙にまつわるさまざまな話題を通して南北 Korea の「言語差」を論じている。

なお、本考の議論と関連するテーマとして、Korean を日本語で何と呼ぶべきかに関するものがあり、徐龍達(1983)、大村益男(1983)、植田晃次(2002)、内山政春(2004)などがある。徐龍達(1983)は、日本放送協会(NHK)で開設予定だった Korean の講座名を、政治的中立の立場から「韓国・朝鮮語」とすべきだとした。大村益男(1983)は徐龍達(1983)に対する反論であり、「朝鮮」は南北 Korea の現在の政治状況を超越する呼称であるとした。植田晃次(2002)は、Korean の名称には「漢字の惑わし」があると指摘すると共に、「総合的朝鮮観」に基づいて「朝鮮」という呼称が妥当であるとしている。また、内山政春(2004)は、「韓国語」・「朝鮮語」ともに正当な呼称であるとしつつ、日本語での Korean の呼称問題に Korean People が干渉することによって、呼称の選択が自ずと制限されてきた点についても指摘している。

1.5 上掲の見解の持つ問題点

「韓国語」と「朝鮮語」を区別するという考え方の背景には、以下のような認識が根底にあるものと考えられる。

①南北 Korea の各々の領域内では均質な言語が使用されている、②したがって南北 Korea で使用されている言語には言語差がある、③その言語差を基に、南北 Korea 各々の言語は明確に区別することができる、④South Korea は現在「韓国」と呼ばれているので、その言語は「韓国語」であり、North Korea は「朝鮮」と呼ばれているので、その言語は「朝鮮語」で

ある、というようにである。

したがって、「南北 Korea の言語差」に対する認識は、『韓国語』と『朝鮮語』を区別するための前提条件となるのである。

「南北 Korea の言語差」と『韓国語』と『朝鮮語』の区別に関する既存の諸見解に対し、以下のような問題点を指摘しておきたい。

- ① 「南北 Korea の言語差」については少なからず検討されてきたが、日本・中国・旧ソ連で使用されている在外 Korean たちの言語変種なども交えた包括的な議論はほとんどなされて来なかった。
- ② 「南北 Korea の言語差」を論じる際、基本的に、「韓国標準語」対「朝鮮文化語」、あるいは、「ソウル方言」対「平壤方言」を対立させて、その違いにのみ焦点を当てる傾向が強かった。North Korea 内にも South Korea 内にも上記以外の変種があり、North Korea 内、あるいは、South Korea 内の方言差が考慮されることはほとんどなかった。すなわち、あまたある Korean の諸変種のうちの4変種の違いのみを根拠に「南北 Korea の言語差」としてきた。
- ③ 南北 Korea の実際の言語分布や言語状況が十分に反映されていなかった。例えば、1940年代後半から存在してきた「越北者・越南者」⁽¹⁴⁾たちの存在がこの種の議論で考慮されることはほとんどなかった。あたかも軍事境界線の北と南では、相手の支配領域で使用されている言語の要素がまったくない、明確に「異なる」言語が使用されているかのように記述しているものが少なくない。しかし、Korean の分布は、Korea が20世紀に経た政治

(14)北緯38度線によって Korea が分断された後、South Korea から North Korea へ行った者は「越北者」、

North Korea から South Korea へ行った者は「越南者」と呼ばれてきた。

的変動と人の移動を反映して、それほど単純ではないのである。

1.6 本考での論点

本考では、Koreanのうち、South Koreaで使用されているものを「韓国語」、North Koreaで使用されているものを「朝鮮語」と区別することの妥当性について、①言語分布、②言語の構造的な違い、③相互理解度 (mutual intelligibility)、④正書法や言語規範の違い、という論点に基づいて検討したい。なお、本考ではできる限り Korean に関する既存の研究成果や実際の言語データに基づいて検討することにする。

2. 「韓国語」と「朝鮮語」の区別の妥当性についての検証

2.1 Korean 諸変種の分布

Korean 諸変種話者の総人口は約7000万人であるが、その分布は以下の通りである。

Korea 内：東北方言、西北方言、中部方言、
東南方言、西南方言、済州方言

Korea 外：旧ソ連地域変種、中国地域変種、
日本地域変種

Korean 諸変種の分布は、Korea が19～20世紀に経た社会変動と人の移動を如実に物語っている。Korea 内では、伝統的な方言分布の中に他の方言話者集団が存在する一方、Korea 外では、さまざまな方言話者の集住地が点在している。まず、前者について言えば、1945年以後の Korea の分断と1950年～53年までの朝鮮戦争時の人の移動によって、South Korea には、本来 North Korea に分布する方言の話者である東北方言、西北方言、そして、North

Korea の中部方言（黄海道方言・北部江原道方言）話者が居住している。したがって、South Korea でも、North Korea 出身の移住民らによって North Korea の諸変種が使用されてきた。下の例は、朝鮮戦争前に South Korea に逃れてきた西北方言話者の老人が、North Korea にいるであろう親族たちへのメッセージを収録したテレビ番組での発話である。

너희들 살아잇일거 아니가. 한번 보문 동
갓다야.

[nəfidul sara:ilk'ə aniga. hanbən bomun
dok'at' t'aja]

お前たち生きているだろう。一度会えたらいいのね。

KBS「부치지 못한 편지 (送られなかった手紙)」2006年12月31日放送分

一方、North Korea には、本来 South Korea に分布する方言の話者である東南方言、西南方言、South Korea の中部方言（京畿道方言、江原道南方言、忠清道方言）、そして、済州方言話者が居住している。したがって、North Korea でも、South Korea 出身の移住民⁽¹⁵⁾によって South Korea の諸変種が使用されているものと考えられる。

Korea 外について言えば、中国の吉林省には東北方言話者とその子孫が、遼寧省には西北方言話者とその子孫が、黒竜江省には東南方言話者とその子孫らが集住する傾向がある。彼らは、程度の差があるものの、それらが中国で変化した変種を使用している⁽¹⁶⁾。

したがって、Korean の諸変種を、その使用地域を実効支配している国の略称を冠して呼ぶとすれば、従来から North Korea で使用され

(15) South Korea の諸方言話者である在日 Korean 帰国者も含まれる。

(16) 伊藤英人(2006)、植田晃次(2000)、宮下尚子(2007)参照。

てきた西北方言は「朝鮮語」と呼び、South Korea への移住民の使用する西北方言は「韓国語」と呼ばねばならない。また、South Korea のソウル方言は「韓国語」と呼び、North Korea への移住民の使用するソウル方言は「朝鮮語」と呼ばねばならない。また、Korea 外の Korean 諸変種は、「韓国語・朝鮮語」のいずれからも排除されることになる。

また、Korea 内の言語状況は、南北共に、上述のような諸変種と南北分断後に新たに発生した語彙や文法が渾然一体となって使用されており⁽¹⁷⁾、かなり複雑である。

2.2 Korean 諸変種の構造的側面

2.2.1 音的側面

Korean のいくつかの変種の母音体系は以下のようになる。

旧ソ連変種・カザフ /ieɛiəuɔ/

이기잡(イ・ギガブ) ほか(2000)

中国変種・延辺 /ieɛiəuɔ/

梅田博之(1992、伊藤(2006)から再引用)

西北方言 /i(y)e(ɸ)ɛaɯuəɔ/

어창수(オ・チャンス、1985)

中部方言・ソウル /ieɛaɯuɔɔ/

趙義成・呉文淑(2004)

東南方言・靈山 /ieəuɔ/

梅田博之(1972)

日本変種・大阪 /ie(ə)auɔ/

報告者の内省と他の話者に対する観察結果

旧ソ連地域変種⁽¹⁸⁾の母音/ɛ/は、이기잡(イ・ギガブ) ほか(2000)によると、同変種の話者自身がしばしば/a/と混同するというので、[ɛ]~[æ]に当たると思われる。

西北方言は、어창수(オ・チャンス、1985)の行った、3人のインフォーマントの「文化語」母音の発音に関する調査結果である⁽¹⁹⁾。ただし、「文化語」と西北方言は方言的な基礎が別個の言語であり⁽²⁰⁾、なおかつ、「文化語」は規範語で、実際の会話での使用や家庭での習得の可能性はほとんど考えられないことから、この研究は、実際には、西北方言の母音に関する調査と行うことができる。

オ・チャンスによると、/y/と/ɸ/はいまだ完全に「文化語」の単母音になってはいない⁽²¹⁾というので、実際の単母音は8つと考えられる。また、/ə/の調音点は/u/と/o/の中間にあり、若干の円唇性を帯びているという。/o/の調音点は/ə/と/a/の中間にあるというので、ソウル方言の/o/より唇の開きが大きいようである。

趙義成・呉文淑(2004)によると、ソウル方言の/e/と/ɛ/は、40代以下の話者では、単語の第1音節のみで対立して第2音節以下での対立はなく、また、/o/は円唇性が少ないという⁽²²⁾。

東南方言中の靈山方言では、ソウル方言の/u/や他の変種での/i/に当たる音素は/ə/に統合されている。

(17)次の例文は筆者の作例であるが、North Korea の東北方言話者は「이 에스키모는 맛이 좋지비 [i esikʰimoni maɕiga tɕotɕʰibi] (このアイスクリームは味がいいよ=おいしいよ)」と発話することができる。一方、朝鮮戦争ごろに越南した東北方言話者は「이 팔빙수는 맛이 좋지비 [i pʰatʰpʰɪnsuni maɕiga tɕotɕʰibi] (このカキ氷は味がいいよ=おいしいよ)」と発話することができる。「에스키모」はアイスクリームを表す North Korea の単語、「팔빙수」はカキ氷を表す South Korea の単語で、両者とも分断後に使用され始めたものである。

(18)この変種の話者による言語名称は「고려말 [koremar] (高麗語)」である。菅野裕臣(2003)は「中央アジア方言」とも呼んでいる。

(19)어창수(オ・チャンス、1985)では音素を朝鮮文字(ハングル)で表記しているが、他の諸変種との比較の便宜上、筆者がそれらを国際音声字母(IPA)に改めた。

(20)趙義成・呉文淑(2004) 28頁参照。

(21)어창수(オ・チャンス、1985) 112頁参照。

(22)趙義成・呉文淑(2004) 34頁参照。

「日本変種・大阪」は、本考の筆者自身の発音に対する内省と他の話者に対する観察結果である。50代以上の話者、特に男性話者は日常の発話でも、[kogi] (肉・魚) と [kegi] (そこ) のように、円唇母音[o]と非円唇母音[ø]を区別して発音する事例が広く見られる。一方、同世代の女性話者や40代以下の話者は、[ø]の発音に特に注意を促した場合、[kogi]と[kegi]を区別して発音できるものの、日常の発話ではいずれも[kogi]と発音しており、両者の対立はない。

また、済州方言には、「똥[tʰʌ] (娘)」、「소춘[sʌtɕʰun] (いとこ)」などの音素/ʌ/があるが、これは Korean のほかの変種には存在しない⁽²³⁾。

次に、Korean 諸変種を音調の観点から分類すると以下ようになる。

- 弁別的な高低アクセントあり：東北方言、東南方言、旧ソ連変種、中国変種・延辺
- 弁別的な高低アクセントなし：西北方言、中部方言、西南方言、済州方言
- 有無が未確定のもの：日本変種

旧ソ連地域変種と中国地域変種の延辺方言は、いずれも東北方言から分かれ出たものである。なお、日本地域変種の大阪方言には、「의사가 [wisaga] 高低低 (医者が・医師が)」と「의사가 [wisaga] 低高低 (意思が)」や「수도에서 [sudoseso] 高低低低 (首都から)」と「수도에서 [sudoseso] 低高低低 (水道から)」のように、音調の違いで単語の意味が弁別される例が見られ、日本地域変種にも弁別的な高低アクセントがあることを予感させる⁽²⁴⁾。

2.2.2 文法的側面

Korean の諸変種では、語彙形態素に文法形態素が接尾して単語の文法的な意味が変化する「活用」がある。用言では、語彙形態素に文法形態素が接尾するときに見られる語彙形態素の音形の異同に基づいて、活用はいくつかのパターンに帰納することができるが、そのパターンはすべての変種で一様ではない。

例えば、中部方言や西北方言に見られる「入変則活用」は、済州方言では「規則活用」で対応する（下例の音声表記は筆者が補足）。

例	中部方言：	済州方言：
「治って」	났고 [nat'k'o]	났곡 [nat'k'ok]
「治れば」	나오면 [naum'ɔn]	났이민 [naɕimin]
「治った」	나았다 [naat't'a]	났았저 [nasat'tɕə]

また、中部方言や西北方言・済州方言に見られる「日変則活用」は、東南・東北方言では「規則活用」で対応する（下例の音声表記は筆者が補足）。

例「暑ければ」

東南方言	：더부머 [tebumə]
ソウル方言形	：더우면 [tɕum'ɔn]
「暑くても」	
東南方言	：더버도 [tebedo]
ソウル方言形	：더워도 [tɕwodo]
	東南方言形は崔明玉(1980) P 194-195より引用

「憎い (連体形)」

東北方言	：밋운 [mibun]
ソウル方言形	：미운 [miun]

「難しくて」

(23)本考では、済州方言の母音/ʌ/の朝鮮文字表記は、便宜上、「ㅏ」とする。

(24)同変種は在日本朝鮮人総聯合会（以下、総聯）を中心とした社会で使用されており、主にその傘下の「朝鮮学校」で習得される。朝鮮学校では現在に至るまで、学校内で Korean を使用する環境を作り出すことで、

生徒らに Korean を自然習得させてきた。総聯や朝鮮学校には東南方言話者である慶尚道出身者が最も多かったであろうから、組織・学校内の言語状況とその使用にも何らかの影響を及ぼしているものと考えられる。伊藤英人(2006)、宋実成(2007)参照。

東北方言 : 어럽어서 [ər'əbəsə]

ソウル方言形 : 어려워서 [ɔr'owəsə]

東北方言形は김 병제(キム・ビョン
ジェ、1965) P15より引用

また、現在進行中の動作を表すアスペクト形式は、Koreanの多くの変種では、/-go iσ-(고 있-)/という分析的な形で表されるが、済州方言では/-ams-~-əms ~-jəms-/という総合的な形で表される。

例 먹엄서 [mægəmsə]「食べている」
보암수다 [poamsuda]あるいは
보암수파 [poamsut'a]「見ています」
호염시난 [hɔjəmʃinan]あるいは
햄시난 [həmʃinan]「しているから」

2.2.3 語彙的側面

語彙の変化は、その言語が行われている社会のありようや変化に連動している。したがって、そこで必要とされる語彙は、まったく新しい音形の単語なり、既存の単語を派生させたり複合するという形で作られる。他方、必要とされない語彙はまったく使われなくなることもあれば、従来の意味が変化して使われたりもする。

南北分断後の Korea では、従来の地域方言差に加え、南北間の人的・物的交流が遮断されたことと、南北双方が独自の言語政策をとってきたために、両者の語彙に違いが生じた。例えば、①「운전기사 [undzəngisa]」と「운전수 [undzənsu]」(いずれも「運転手」の意)のように、同じ対象を表わす場合でも南北で異なる単語が使用されたり、②「南: 일꾼 (肉体労働者) / 北: 일꾼 (党などの活動家) 発音はいず

れも [ilk'un]」のように同じ音形の単語が異なる意味を表わしたり、③North Korea での「남새 [namsə] (野菜)」や「가시아버지 [kaɕia bedzi] (妻の父)」のように、言語政策によって、固有語の語彙や地域方言の語彙が従来の規範言語の語彙に取って代わる、といった現象が起こった。

また、日本による植民地統治時代に借用された日本語起源の職業用語や、差別的とされたり、時代にそぐわないとされた単語を別の単語に置き換える政策である South Korea での「국어순화 [kugosun'a] (国語醇化)」や North Korea での「말다듬기 [malt'adumk'i] (言語整理)」によって、南北で異なる形に置き換えられた語彙もある。上述の「運転手」を意味する単語は、North Korea や中国・日本では従来の「운전수 [undzənsu]」であるが、South Korea では「運転技師」を意味する「운전기사 [undzəngisa]」に改められた。また、「弁当」という単語は、South Korea では従来の「도시락 [toɕirak']」を使用しているが、North Korea では「곡밥 [k'ak'p'ap']」に改められた。

Korean には、このような南北間での語彙の違いと共に、南北各々の領域内外にある諸変種間での語彙の違いも同時に存在している。

例えば済州方言で「祭祀」を意味する単語には、ソウル方言での「제사 [tɕesa]」と語源を同じくする漢字語「제소 [tɕesə]」と済州方言に固有と思われる「식계 [ɕik'k'e]」の2つが共存している。また、済州方言では、父親の兄弟のなかで上から2番目のおじを「셋아방 [set't'aban]」⁽²⁵⁾という。

一方、東北方言では、「ポケット」を表す単語は、

(25)この単語は[sedaban]と発音されないにも関わらず「셋아방」と表記したのは、済州方言話者がインターネット上で使用している表記に従ったものであり、「google」では5件検索された。済州方言の複合語では、前の語彙形態素が子音/b//d/で終わっていて、後ろの語彙形態素が母音で始まる要素が結びつく際、

前の形態素の語末子音が無声内破音で発音されるとともに、後ろの形態素の語頭母音の前に、前の形態素の語末子音が濃音化(喉頭音化)した/β//δ/が現れる。例 지집아이 (少女)[tɕidzɕip'ai] ソウル方言形: 계집애 [kɕdzɕibe] 집안 (家の中) [tɕip'an] ソウル方言形: [tɕiban] 말셋어멈 (父の兄弟のうち末のおじの妻) ↗

ほかの諸変種のような「호주머니 [hodzʌmɔ̃ni]」系統の単語ではなく、「ポケット」を表すロシア語男性名詞「карман [kər'ma:n] (単数主格・対格形)」を借用した「거르만 [kərɪman]」系統の単語である⁽²⁶⁾。また、東北方言や旧ソ連の変種の「汽車」を表す単語には、「부술기 [pusulgi]」あるいは「불술기 [puls'ulgi]」という固有語がある。

この他、日本の変種では、昨今 South Korea から流入した「새해 복 많이 받으세요 [səɦe pom ma:ni padusejo] (新年明けましておめでとうございます)」という表現に押されているとはいえ、「과세안녕하십니까 [kʷaseanŋoŋɦa ɕimmik'a]」あるいは [kʷaseanŋoŋɦa ɕimmjik'a]」が現在も使われている⁽²⁷⁾。

またソウル方言では妻の父を表す単語は漢字語「장인 [tʃanin]」であるが、西北方言には「가시아버지 [kaɕiabədzi]」が、済州方言には「가시아방 [kaɕiabəŋ]」が、東北方言には「가스애비 [kasiɛbi]」、中部方言の下位方言である江原道伊川・法洞方言には「가시아바이 [kaɕiabai]」という固有語の単語がある。これらに共通する接頭辞{가시-}、{가스-}はソウル方言にはないものの、North Korea の西北・東北・中部方言と South Korea の済州方言に起源を同じくする語彙が存在する事例である⁽²⁸⁾。

2.3 Korean 諸変種の相互理解度

上述のように、言語の音・文法・語彙などの内容の異同とその度合いによって、同じ民族の言語といえども、それが異なる変種の話者らに

理解される度合いである相互理解度 (mutual intelligibility⁽²⁹⁾) は異なる。

金泰虎(2006)は、「韓国語」と「朝鮮語」の異質化の結果、両言語の状況は翻訳を必要とするほどに深刻である、としているが、ここでは South Korea 内の変種を相互理解度という観点から検討してみよう。

報告者が実際に耳にした済州方言での発話をいくつか見てみよう⁽³⁰⁾。

- ① 발 뻗어 펜안히 앞입서
[pal p'ədəŋ p'hena:ni adzips'a]
- ② 오라방고라 곧지 말아
[orabəŋgɔra kɔt'tɕ'imara]
- ③ 이넝도 오랑 혼디 먹주
[iŋək't'o oraŋ hɔndi mək'tɕ'u]
- ④ 손콧 기차블라게
[sonk'ɔp' kitɕ'abɭlage]

上記例文の意味は、①「足を伸ばして楽にお掛けになって下さい」②「兄さんに言うな」③「あんたも来て、一緒に食べよう」④「爪を切ってしまいな」である。

波線で示した形式は、済州方言になじみのないソウル方言話者には理解しづらいと思われるものである。上から下の例文に行くほど、ソウル方言話者には理解が難しくなるとされる。

このように、相互理解度の低い変種が同じ支配領域内にある点を無視したまま南北 Korea の言語差を捉えようとしたところで、結局は、南北間での言語差の「大きさ」しか見えて来な

↘ [maltɕ'et't'əmɔ̃ŋ]語源を同じくするソウル方言形なし。
 (26) 한글학회 (ハングル学会、1992年) 165頁参照。
 (27) 日本の変種では、上記の朝鮮文字は、通常、IPA表記のように発音される。
 (28) 김병제 (キム・ビョンジェ、1980) および崔鶴根 (チュ・ハクン、1990) 参照。
 (29) J. K. Chambers and Peter Trudgill (1980) 3 - 4 頁参照。

(30) これらの例文のインフォーマントと発話に関するデータは次の通りである。①および③：女性 (1924年生まれ、済州島西帰浦出身)、2001年に大阪市にて記録、②女性 (詳細不明)、2007年に大阪市にて聴取、④女性 (故人、1916年生まれ、済州島翰林出身)、2001年に大阪市にて記録。これらの例文にある文法形式については、高東昊(2007)参照。

いはずである。

2.4 Koreanの正書法

Koreanの正書法と言語規範は、従来、南北 Koreaのもののみが比較されることが多かったが、中国朝鮮族社会にもあるので、計3種類の正書法・言語規範が存在している⁽³¹⁾。上記の正書法はすべて、1933年発表の「한글맞춤법 통일안 [hangul mat'um'p'op't'ongjiran] (ハングル綴字法統一案)」に基づいており、言語形式の表記は形態主義を原則としつつ、一部で表音主義を取り入れたものである。南北 Koreaと中国朝鮮族社会の3種類の正書法の違いの一つは、形態主義表記と表音主義表記のバランスが若干異なる点である。

例えば、「異質化」の典型例として挙げられてきた、南北 Koreaでの「頭音法則」表記の違いは、形態主義をとるか、表音主義をとるかという問題と言える。

さて、その「頭音法則」とは、ソウル方言をはじめとした Koreanの多くの変種で見られる音韻現象で、次のようなものである。

- ① 語頭の/r/の後ろに母音/i/か半母音/y/が続く場合、/r/は脱落する。
- ② 語頭の/n/の後ろに母音/i/か半母音/y/が続く場合、/n/は脱落する。
- ③ 語頭の/r/の後ろに母音/i/以外の母音が続く場合、/r/は/n/に交替する。

例 리론 /riron/ [riron]

→ 이론 /iron/ [iron] (理論)

녀자 /nyoja/ [nɔdʒa]

→ 여자 /yoja/ [jɔdʒa] (女子)

(31) 植田晃次(2000)参照。

(32) 熊谷明泰(2000) 46頁参照。なお、山本正誠(1923)は、「랑반/ryanban/(兩班)」に「ヤングバン」と、「롱담/ronjam/(弄談:「冗談」の意)」に「ノングダム」とルビを付して単語を示した上で、次のように指

로동 /rodong/ [rodong]

→ 노동 /nodong/ [nodong] (労働)

1933年の「ハングル綴字法統一案」では、「理・女・労」など音節頭音に/r/や/n/を含む漢字が語頭に来たときには、それらの漢字の原音である「리/녀/로 /ri/、/nyo/、/ro/」を表記には反映させずに、「頭音法則」によって変化した発音を表記に反映させた。Koreanでの漢字音(「朝鮮漢字音」)は、中国語のようにそれ単独で単語として使われることは多くないが、日本語と同じく、通常、他の漢字と結合して二音節以上の単語を構成する。したがって、Koreanでの漢字音は、漢字語を構成するための形態素であるといえる。

熊谷明泰(2000)によれば、朝鮮総督府が1921年に制定した「普通学校用諺文綴字法大要」では、語頭の/r/は原音通り表記するよう定められていたという⁽³²⁾。

「ハングル綴字法統一案」は、「頭音法則」表記に関しては、実際の発音を重視したために形態主義から表音主義に傾いた。South Koreaは「ハングル綴字法統一案」のこの部分をそのまま踏襲した。一方、North Koreaでは、「ハングル綴字法統一案」での「頭音法則」表記の不徹底に対する批判から、形態主義表記の徹底に傾いた。そして、これは中国朝鮮族の正書法にも踏襲されたのである。

また、南北 Koreaと中国朝鮮族の正書法でも、母音字21字、子音字19字の同じ形の朝鮮文字(ハングル)を使用しており、それらが音節ごとに一かたまりで表記される点(「모아쓰기」[moas'ugi])も同じである。中国語での漢字のように、中華民国や香港などで使用される

摘している。「리行音ハ凡テ初声ニ在リテハリ行音ニ發音セラレ리行音其儘發音セズ 鮮人ハ加工的意識的ニ非ザレバ初声ニ在ル리行音ヲ發音シ得ラレズ(以下略)」。上掲書7頁参照。

「正字（繁体字）」と、香港・マカオを除いた中華人民共和国（以下、中国）で使用される「簡体字」のように、一部の文字とはいえ、字形という視覚的要素が著しく異なるといったこと⁽³³⁾もない。

また、モンゴル国のモンゴル語は、ウイグル系モンゴル文字とロシア文字を改良した文字の二本立てなのに対し、中国・内モンゴル自治区のモンゴル語はウイグル系モンゴル文字で表記するといった具合に、文字の形と文字を書き進む方向が大きく異なる⁽³⁴⁾。

したがって、南北と中国での Korean 正書法の違いは、中国語やモンゴル語での正書法や表記の違いに比べると、著しく異なるものではないと言える。

2.5 Korean の言語規範

南北 Korea と中国朝鮮族の 3 種の言語規範はすべて、1936年発表の「사정한 조선어 표준말 모음 [sadzəŋhian tɕosəno p^hoɕzunmal moum]（査定した朝鮮語標準語集）」に基づいており、南北 Korea や中国朝鮮族社会の言語政策の違いによって標準語規定が多少変化したものである。1936年発表の「査定した朝鮮語標準語集」はソウル方言に基礎を置いており、South Korea は1988年の規範でも一部に手を加えはしたものの、基本的にこれを踏襲している。

一方、North Korea では、1960年代半ば以降、「標準語」とは異なる規範言語として「文化語」が提唱された。1987年公布の「조선말규범집 [tɕosənmal k^hubomɕzip]（朝鮮語規範集）」では、「文化語」の基礎は「平壤言葉」にあるとしている。したがって、「文化語」運動以降の文献で使われている言語形式を見ると、「인

차 [intɕ^ha~ints^ha]（すぐ）」や動詞「벌리다 [pɕollida]（展開する・広げる）」のような North Korea の方言と思しき語彙、あるいは、動詞「부르다 [puruda]（呼ぶ）」の受身形「불리우다 [pulliuda]（呼ばれる）」のような口語的な語彙、または、「남새 [namsɛ]（野菜）」のような固有語語彙も見られる。

しかしながら、「文化語」の文法形式のほとんどは西北方言の下位方言である平壤方言のものではなく、ソウル方言のものである。したがって、「しないことが望ましい」に当たる「文化語」の形式は、「하디 않았으문 좋았다 [hadi anasumun tɕok^hat^ht'a]」ではなく、「하지 않았으면 좋겠다 [hadzi anass'um^hən tɕok^het^ht'a]か、西北方言の発音の干渉を受けた [hadzi anass'um^hən tsok^het^ht'a]」なのであり、以下のような文は「文化語」ではない。波線部は平壤方言を朝鮮文字で表記した部分である。

이른 사실루 인해서 상대덕으루 봐 “ト”
는 “.” 버단은
[irun saɕillu inɕə sændədɛgwuru p^ha a nun
ʌ pɕedanun]

このような事実から、相対的に見て、「ト」は「・」よりは

전부모음으루 되는데 “ㄱ”은 입수르 좀
오무라테서 넌대니,
[tsənbumoumwuru t^henunde o nun ips'ul ts
om omurat^hesə nɛndɛni]

前部母音になるのだが、「ㄱ」は唇を少し丸めて発音するというので、

도당보 (ト・ドンボ)⁽³⁵⁾

『피양말 (ピョヤン言葉)』P 14

(33) 指示代名詞「これ」は繁体字「這」と簡体字「这」、中国・黒竜江省の地名「ハルビン」は繁体字「哈爾濱」と簡体字「哈尔滨」のように字形が異なること。

(34) ウイグル系モンゴル文字は縦書きで、左から右に行を進めていく。一方、ロシア文字系モンゴル文字は、

英語と同じく、横書きで、上から下に行を進めていく。

(35) 紙数の関係上、例文の分かち書きの一部を筆者が変更した。ちなみに、도당보 (ト・ドンボ) は平壤出身の在日 Korean で、平壤方言を基にした言語規範を作ろうとした人物である。

なお、植田晃次(2000)によれば、1996年に改定された中国朝鮮族の言語規範「조선말규범집 (수정보충판) [t̚osɔnmal kʰubomdzɨpʰ sudzɔŋbot̚ʰunpʰan] (朝鮮語規範集 修正補充版)」では、従来、平壤言葉を基礎にするとされていた文言が削除され、規範の方言的な基礎についての言及はないという。

上述のように、Korean の言語規範は、南北 Korea と中国朝鮮族の3種が併存している。各々が多少違いのある規範を持っていることを根拠に、South Korea の規範語を「韓国語」、North Korea の規範語を「朝鮮語」とするならば、中国朝鮮族の規範語は何と呼べばいいのだろうか。

Korean を「韓国語」と「朝鮮語」に区別する根拠として、各々が別個の言語規範を持っているという主張は、Korean の言語規範3種が併存している状況を考えたとき、妥当ではないと言える。

2.6 Korean にいま起きている変化

1953年の朝鮮戦争休戦から1990年代半ばまでの約40年間、南北 Korea 間での人の往来は、合法的なものであれ非合法的のものであれ、きわめて一部に限られていた。ところが、1990年代半ば以降、North Korea での水害と食糧危機が深刻化したところから、「セト民 (새터민 [setʰɔmin]、『新しい地の民』の意。日本で言う『脱北者』) 問題が大きく浮上した。彼らのほとんどは South Korea に定住している。したがって、現在、South Korea では、「セト民」たちによって North Korea の変種が用いられている。下の例は、現在 South Korea に暮らす東北方言話者の「セト民」がテレビのインタビューに答えているときの発話である。聴き取れなかった箇所は○で、意味が明らかでなかった箇所は波

線で表す。

제가 북한에서 살면서 제 자식들이
그 강내⁽³⁶⁾, 옥수수밥 이거
[t̚ɛga pukʰanesə salmʰənsəri t̚ɛ tsəɕikʰtʰiri
ku kaŋne oksʰusupʰabigə]

私が北韓で暮らしていて、うちの子らがその
とうもろ、とうもろこしご飯これ

한그릇 먹는거 그거이 너무 부러워서
아이들이 캐니
[hangʰirɨn mənɨŋgə kuŋei nɐmu purɛwəsə
aidʰiri kʰɛni]

一杯食べるの、それが本当にうらやましくて、
子供たちが (不明)

안떠날 때 내 가슴속에선 진짜 아이가
야 눈물이 마이 찻더어요
[antʰənalʰt̚ɛ nɛ kasʰmsʰogəsən t̚ɛint̚ɛʰa aigaja
nunmuri mai t̚ɛʰatʰt̚ɛssʰəjo]

離れなかったとき、ぼくの心の中では本当、
(不明) 涙がたくさん溢れましたよ

KBS 「꿈을 심는 사람들 (夢を植える
人たち)」2007年2月4日放送分

North Korea の変種の話者らが South Korea に続々と流入して来る昨今の状況は、「脱北」という皮肉な形ではあるものの、分断によって途絶えていた諸変種間の言語交流と多言語状況を結果的に作り出しているともいえよう。

3. 結 び

以上、Korean Language 諸変種の分布や構造、相互理解度、正書法、言語規範、いま起き

(36) 「강내」は「とうもろこし」の非ソウル方言形である「강냉이 [kaŋnɛŋi]」を途中まで言いかけて、ソウ

ル方言形である「옥수수 [oksʰusu]」に言い換えたものと思われる。

ている変化という話題を通して、Korean を「韓国語」と「朝鮮語」に区別することの妥当性について検討した。その結果、以下のようにまとめることができる。

①Korean 諸変種の分布は南北 Korea 内外に及んでいる上に、南北双方とも自己の領域内に、本来相手の領域に分布する変種を抱えている。また現在、新たに North Korea の諸変種話者が South Korea に流入している。このような点から、South Korea の言語は「韓国語」で North Korea の言語は「朝鮮語」であるという区別は妥当ではない。

②Korean 諸変種の音・文法・語彙のなかには、North Korea のある変種と South Korea のある変種は共有しているものの、South Korea の他の変種は共有していない特徴（またはその逆も）がある。したがって、「韓国語」と「朝鮮語」を構造的側面を根拠に区別することは困難である。

③South Korea で生まれ育った変種話者にとって理解が難しい South Korea の変種がある以上、相互理解度は「韓国語」と「朝鮮語」を区別する基準として妥当ではない。

④正書法ならびに言語規範の母体は同じである。南北 Korea と中国朝鮮族社会で実施されてきた言語政策によって互いに一部が異なるものの、世界の他の言語における正書法と言語規範の違いに比べると、著しく異なるとまでは言えない。

以上の点から、South Korea の言語を「韓国語」、North Korea の言語を「朝鮮語」と区

別して呼ぶことは妥当でないと思われ、筆者は考えるのである。

さて、Korean の言語名称に対する筆者の態度について述べておきたい。筆者は Korean の総称として、「조선어 [tɕosɔnsɔ]

とその日本語訳である「朝鮮語」を用いている。その理由は、①「한국어 [hangugɔ]

とその日本語訳である「韓国語」は南北分断以後に使われ始めたと考えられる。②分断前に Korea 内外の Korean People たちが共有していた名称は「조선어 [tɕosɔnsɔ]

、そして、日本語で表現する場合は「朝鮮語」だったという点にある。しかしながら、筆者は「韓国語」を Korean の総称として使用することも妥当であると考えている。

本考で言及した諸変種は、「朝鮮語＝韓国語」⁽³⁷⁾という言語の下位変種である。したがって、North Korea の諸変種を取り立てて呼ぶ必要がある場合、「朝鮮語北朝鮮変種」や「北韓韓国語」などと、そして、South Korea の諸変種を取り立てて呼ぶ必要がある場合、「朝鮮語南朝鮮変種」なり「南韓韓国語」などと呼ぶことも可能であろう⁽³⁸⁾。

「朝鮮・韓国（あるいは韓）」のいずれの名称も Korea 文化の所産である。ところが、Korean People はその所産を、敵対する体制への憎悪から、あるいは、権力や権威による要請から、Korea 国内のみならず、日本を始めとした国外でも封印し抹殺してきた。

Korean People は、1950年代に新たに作られた「朝鮮・韓国（韓）」という名称に対する冷戦的認識をいまこそ克服し、双方の名称を正当

(37) 藤井幸之助氏は「朝鮮語」と「韓国語」が同じ言語であると理解されるよう、両者を「=」で結んで表記している。藤井幸之助(2001)参照。

(38) 南北 Korea で使用されている各々の言語名称の可能性については内山政春(2004) 5-1 参照。ちなみに、通常、英語 (English) のイギリス変種は "British English"、アメリカ変種は "American English" のように「その言語が使用されている地域名・国名の形容詞形+English」という形で、一方、これらを日本

語では「イギリス英語」、「アメリカ英語」と呼んでいる。また、通常、日本語では、ドイツ語のオーストリア変種は「オーストリアドイツ語」、ドイツ語のスイス変種は「スイスドイツ語」のように呼ばれている。すなわち「その言語が使用されている地名・国名+英語・ドイツ語」という形で呼ばれており、「イギリス語」や「アメリカ語」、あるいは、「オーストリア語」や「スイス語」のように、「英語」や「ドイツ」と切り離された形で呼ばれてはいない。

に評価・使用する必要があるのではなからうか。

4. 参考文献ならびに引用資料類

ー日本語

伊藤英人「現代における朝鮮半島以外の코리아語」『アジア遊学』、No.92、勉誠出版、2006年、P32-42

植田晃次「1990年代中国の朝鮮語規範化と語彙規範の問題点」『言語文化研究』、第26号、大阪大学言語文化学部大学院言語文化研究科、2000年

植田晃次「ㄹ音再攷ー朝鮮民主主義人民共和国における頭音法則と子音同化」『言語文化研究』、第27号、大阪大学言語文化学部大学院言語文化研究科、2001年

植田晃次「言語呼称の社会性ー日本で朝鮮語、韓国語、ハングル…と呼ばれる言語の呼称再考ー」『社会言語学Ⅱ』、「社会言語学」刊行会、2002年

内山政春「言語名称『朝鮮語』および『韓国語』の言語学的考察」『異文化』、5、法政大学国際文化学部、2004年

梅田博之「朝鮮語靈山方言のアクセント」『現代言語学』、三省堂、1972年

ヴォルフ、ウーヴェ (Wolf, Uwe) 「[特別寄稿] 新バッハ全集はバッハという作曲家像を根本から覆し、その真の姿を強く印象付けることになりました」(岡本稔訳)『音楽の友』音楽之友社、2007年8月号、P61

大野敏明『日本語と韓国語』、文芸春秋、2002年

大村益夫「『朝鮮語』呼称に正統性 言語や文化は超政治的次元で」『朝日新聞』、1983年3月25日

亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典 第6巻 術語編』三省堂、1996年

菅野裕臣「ウズベキスタン高麗人の高麗語につ

いての覚書」『旧ソ連高麗人の民族文化の継承と変遷に関する研究ー言語・伝承説話・墓制を中心としてー』科学研究費補助金研究成果報告書、2003年、P31-72

金善美「코리아語の名称をめぐるー名称の統一と多様化ー」『言語文化教育学の可能性を求めて』森住衛監修、三省堂、2002年

金泰虎「日本における『朝鮮語』の名称」『韓国語教育の理論と実際』白帝社、2006年、P3-34

キム・ハス「南北朝鮮間の言語問題」(イ・ヨンスク訳)『言語帝国主義とは何か』藤原書店、2000年、P351-366

熊谷明泰「南北朝鮮における言語規範乖離の起点ー頭音法則廃棄政策における金寿卿論文の位置ー」『人権問題研究室紀要』、関西大学、抜刷、2000年

高東昊「方言の文法的分化」『韓国語教育論講座』、第1巻、くろしお出版、2007年、P179-202

高榮珍「分断と言語問題研究序説ー韓国と北朝鮮の場合ー」『一橋論叢』、第123巻第3号、日本評論社、2000年

小林孝久『カール・ツァイス 創業・分断・統合の歴史』朝日新聞社、1991年

在日朝鮮人の人権を守る会『在日朝鮮人の基本的人権』二月社、1979年

徐龍達「韓国・朝鮮語」を統一用語に 一方に固執すれば『分断』へ加担」『朝日新聞』、1983年3月15日

宋実成「朝鮮学校児童らの朝鮮語使用ー談話文字化資料から見た文法諸形式の使用状況についてー」『在日コリアンの言語』、科学研究費補助金研究成果報告書、2007年、P87-108

趙義成「慶尚道方言とソウル方言」『韓国語教育論講座』、第1巻、くろしお出版、2007年、P203-219

趙義成・呉文淑「朝鮮語」『言語情報学研究報

告』、No. 4、東京外国語大学大学院地域文化
研究科、2004年

鄭稀元「韓国と北朝鮮の言語差」『韓国語教育
論講座』、第1巻、くろしお出版、2007年、
P163-178

橋本郁雄「ドイツ語」『言語学大辞典』、第2巻
世界言語編(中)、三省堂、1989年、P1189-
1214

藤井幸之助「朝鮮語=韓国語④」『ことばと社
会』、5号、三元社、2001年、P157-163

ホーフマン、クラウス(Hoffmann, Klaus)
「ゲッティンゲン・バッハ研究所の歴史—
『新バッハ全集』発祥の地」『バッハ全集』、
第4巻 教会カンタータ[4]、小学館、P26-
37

前田達郎『『在日』の言語意識—エスニシティ
と言語』『在日コリアンの言語相』、和泉書院、
2005年、P87-114

宮下尚子『言語接触と中国朝鮮語の成立』九州
大学出版会、2007年

関光準「日本語と朝鮮語のアクセントとイント
ネーション」『講座 日本語と日本語教育3
日本語の音声・音韻(下)』、明治書院、1990
年

山本正誠『朝鮮語研究』大阪屋號書店、1923年
S.R.ラムゼイ『中国の諸言語』(高田時雄他訳)、
大修館書店、1990年

和田春樹『金日成と満州抗日戦争』、平凡社、
1992年

—朝鮮語

김병제『방언사전』과학,백과사전출판사, 평
양, 1980年

김병제『조선어 방언학 개요』、중, 사회 과학
원 출판사, 평양, 1965年

고영근「남북 맞춤법의 검토」『통일시대의
어문문제』길벗, 서울, 1994年、P120-134
도영보『피양말』도영보, 東京, 1976年

사회과학원언어학연구소『조선말대사전』1・
2、과학, 백과사전출판사, 평양, 1992年

어창수「문화어모음의 조음적특성에 대한
연구」『언어학론문집』、6、과학, 백과사전
출판사, 평양, 1985年、P79-129

이기갑, 김주원, 최동주, 연규동, 이헌중「중
아시아 한인들의 한국어 연구」『한글』、
247, 한글학회, 서울, 2000年

이승녕「脣音攷 —특히 脣輕音 ‘녕’ 를 중심
으로 하여」『李崇寧國語學選集 2 音韻篇
II』、民音社, 서울, 1988年、P11-64

전학석「함경도 방언의 음조에 대하여」
『한글』、224, 한글학회, 서울, 1994年、P9
5-108

『조선문화어문법규범』김일성종합대학출판사
(변각발행 학우서방)、평양(도쿄)、1976
年

崔明玉『慶北東海岸方言研究』、嶺南大學校
民族文化研究所 民族文化叢書4、嶺南大學
校出版部、1980年

崔鶴根『增補 韓國方言辭典』、明文堂、1990年
編輯部『'97年版 基本小法典』、法文出版社、
1997年

한글학회『우리말 큰 사전』첫째권, 어문각,
1992年

—その他の言語

J. K. Chambers and Peter Trudgill, *Dialecto-
logy*, Cambridge University Press, 1980

—資料を参照・引用したホームページ

趙義成『趙義成の朝鮮語研究室』[http://www.
tufs.ac.jp/ts/personal/choes/](http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/choes/)

제주MBC『돌하르방 어드레 감수광』
[http://www.chejumbc.co.kr/radio/main.
asp](http://www.chejumbc.co.kr/radio/main.asp)

KBS「부치지 못한 편지」、『남북의 창』、
2006年12月31日分

<http://news.kbs.co.kr/snwindow/>

K B S 「꿈을 심는 사람들」、『남북의 창』、
2007年 2 月 4 日分

<http://news.kbs.co.kr/snwindow/>